

平成 25 年度(2013 年度) 第 1 回とよなか都市創造研究所運営委員会
議事要旨

日 時 : 平成 25 年(2013 年) 6 月 18 日(火) 9 時 40 分～11 時 40 分
場 所 : 豊中市役所第 2 庁舎 3 階 大会議室
出席委員 : 赤尾委員、安藤委員、坂田委員、砂原委員、土山委員、新川委員
事務局 : 浅利市長、本荘、福山、泉、森、熊本、平田、仲谷
傍 聴 : 0 人

開会

市長挨拶、事務局員紹介

案件(1) 委員長及び副委員長の選出について

- ・新川委員が委員長に選出された。
- ・赤尾委員が副委員長に選出された。

案件(2) 平成 24 年度(2012 年度) 事業報告について

資料: 資料 3「平成 24 年度(2012 年度) 事業報告について」

事務局から資料に基づき説明があった。説明内容は略。以下、質疑応答をまとめる。

- ・委 員: 機関誌の発行数は? 何部くらい売れるのか。
事務局: 昨年度から 300 冊。ほとんどが市各部局への配布と寄贈で、販売数は少ない。
- ・委 員: インターンシップではどのようなことをするのか。
事務局: 毎年 7 月から 8 月にかけて、3 名の大学生、大学院生を受け入れている。
インターンシップ生が各自で豊中市にかかわる研究テーマを選定し、調査を行う
実習と、研究員の補助(調査票封入作業、データ入力など)を行っている。
- ・委 員: 研究所が収集した資料の活用状況は?
事務局: 貸し出し数はバラつきがあり、年に 50 冊から 100 冊、平均すると 70 冊前後。
借りる人は、およそ職員が 95%、市民が 5%。

案件(3) 平成 25 年度(2013 年度) 調査研究について

資料: 資料 4「平成 25 年度(2013 年度) 調査研究について」

事務局から資料に基づき説明があった。以下、テーマごとに質疑応答をまとめる。

「少子高齢社会における人口の変化と市政への影響に関する調査研究（ ）」について

- ・委員：昨年度は客観的な人口動態を調査し、今年度は研究グループで人口移動の要因を考
えるというスタンスだと理解した。これは、客観的な昨年度研究の数字をもとに今
年の方針を考えたのか、最初から政策的な方針がベースにあったのか。

事務局：昨年度調査と研究グループは全く独立したものではなく、関連したものである。
政策的案方針として、本市の総合計画には、人口減少に歯止めをかけることが示し
てあり、それがどのような現状にあるのか把握する意味もあって調査をすすめている。

昨今他自治体でよくみられる子育て世代にターゲットを絞った政策を行うため
に調査を行っているわけではない。

- ・委員：人口増減には経済的要因等もあり、豊中市だけで人口増減を考えられないのではな
いか（資料4 p.1）。他市との自治体との比較も検討してほしい。

事務局：今年度の研究グループでは、その視点を踏まえて研究をすすめたい。

- ・委員：定住促進と言っても、豊中市全域を同じように見ることはできないのではないか。

事務局：昨年度は市内を7ブロックにわけて転出入を分析した。千里地域では全年齢層で転
入超過、南部地域では全年齢層で転出超過が見られた。今年度の調査においても、
地域に分けて分析を行うことも考えている。

- ・委員：住基データをもとにアンケート調査するというなら、行政データそのものを分析す
る方が効率的ではないか。

事務局：昨年度は行政データを使って分析した。その結果をベースに定性的な調査を行う予
定。特に南部地域に関する現状の把握は、2番目の研究テーマとも重なっている。

委員：地域ごとではなく、メッシュで分析してもいいかもしれない。

- ・委員：住民基本台帳の登録率（国調との差）は？

事務局：直近の住基による人口はおよそ398,000人、国調推計ではおよそ393,000人。

「交通整備に伴う人口構成の変化の調査 豊中市庄内地区を事例として（ ）」について

- ・委員：研究の最終目標は、客観的なデータをとることだけか。人口構成が変化するとコミ
ュニティのあり方も変わってくると思うが、それについての考察については考えて
いるか。最終的にはどこまで考察するつもりか。

事務局：今後のアクションをどうするかという課題はあるが、今年度については、まず客観
的なデータを把握したい。

- ・委員：単身世帯が増加しているが、男女比は？ 高齢単身世帯急増の理由は何かあるのか。
事務局：昨年度は高齢単身世帯の男女比は調べていない。女性の方が高齢化率が高いので女性が多いと推測できる。

- ・委員：他の地域と比較しないと、庄内だけを見てもわからない。道路が狭いので、幹線道路だけを整備しても生活は変わらないかもしれない。どのように評価するのか。
事務局：検討の対象となっているのは庄内地区でも比較的整備が進んでいる地区で、庄内地区の中で他の地域との比較をしようと考えている。
庄内地区は地権関係が複雑で、更新が難しい地区。今後どのように開発できるのか検討していく。

- ・委員：固定資産税のデータをどのように使うのか。
事務局：建物の特性や築年数をミクロ的に扱うか統計的に扱うか検討中。特に新築年に着目したい。

- ・委員：建物の更新には、相続などによるものと道路整備によるものがあり、区別しにくい。道路の影響がわかりにくいのではないか。
事務局：沿道の更新が調査の中心になる。豊中市は空家率が増えていて、特に庄内地区は空家率が高い。都市計画部門と情報共有できるよう調整している。

「豊中市の活力・魅力づくりに関する調査研究（ ）」について

- ・委員：豊中を一つにまとめてしまう必要はないのではないかと。いろいろな特色をもった地区があるので、一つのブランドコンセプトにまとめるのはきつい。岡町ブランドのように地区ごとでいいのではないかと。
事務局：東京では駅単位でブランド化している。市全体のイメージと地区ブランドの双方で検討したい。

- ・委員：豊中のまちあるきを募集すると多数の応募がある。関東から見ると豊中市のブランドはある。

- ・委員：昨年度のアンケートの対象は？ 自分の持っているイメージとアンケート結果は異なる。ブランドのターゲットは？
事務局：市内在住 2000 名の市民へ無作為抽出で調査票を配布した。回収は約 590、回答率は 29.6%であった。回答率は北部が高い。
ブランド化を進めるには一貫性、継続性が必要。これまで各部局で個別に進めてきたものを、全体としてまとめるために研究所が提案する。

- ・委員：豊中にはいろいろなイメージがあるといっても、その中でも象徴的な言葉があるといい。部局横断の検討とはいえ、研究所ならではの提案が欲しい。

案件（４）平成 25 年度（2013 年度）機関誌について

資料：資料 5「平成 25 年度機関誌「TOYONAKA ビジョン 22」Vol.17 企画構成」
事務局から資料に基づき説明。

案件（５）「その他」

事務連絡

- ・次回第 2 回運営委員会は、11 月に開催予定。

閉会